

●写真：人海戦術による原発内労働。定期検査や事故、故障時には1基の原発に千人以上の労働者により補修が行なわれる。放射線被曝は避けられない宿命をもっている。(敦賀原発定検中) =樋口健二

樋口健二インタビュー

株式会社・日本が原発をやめな理由

写真家で、最近『アジアの原発と被曝労働者』（八月書館）という本を出した樋口健二さんに、本紙No.6以来のインタビューをさせてもらった。樋口さんは長年にわたり、原発の中で日常的に被曝している労働者の問題を追いかけて、訴えて来られた。ここでは被曝の実態と、なぜそういった大変な問題がシカトされ続けてきたのかという視点から、企業と国が一体となった原発推進の構造、そしてその問題が私達に突きつけている意味について語ってもらった。(編集部)

—企業活動と環境、そして消費者である私たちの関係について考える特集なんです。原発は、単に一企業の問題というより、国の政策と密接に結びついているようですね。

樋口■ 元々のところから言うと、原発の元は原爆だったんです。ピキニ核実験の頃、第5福竜丸被曝事件などで、国際世論が「原爆は止める」と高まっていったから、アメリカ政府も考えたんだね。原発を作らせたわけだ。そこでアメリカの原発メーカーができる。一つはGE、もう一つはウェスチングハウス社だ。そしてGEはモルガン財閥、ウェスチングハウスはロックフェラーです。—どちらもユダヤ系ですね。

樋口■ そうそう、アメリカの財閥というのは、マスコミも含めて、みんなユダヤ系だ。

オレならやめませんよ

それで、軽水炉には今、加圧水型と沸騰水型があって、それが日本には沸騰水型を三井物産が持込み、加圧水型の方は三菱商事が持ってきたんです。ここで分かると思いますが、原発というのは電力会社がやるけど、その裏で糸を引いているのは、この大財閥なんだ。だから国策方式をとるのはよく分かります。要するに政治ってというのは、日本

★樋口健二：プロフィール★

1937年生まれ。フォト・ジャーナリスト。四日市公害など、全国の公害、環境破壊、そして原発をテーマにする。著書に『原発被曝列島』（三一書房）、『売れない写真家になるには』、『アジアの原発と被曝労働者』（八月書館）など多数。国分寺市在住。

の場合には必ず金で動いているわけで、その明確な形が原発で見えてくるんです。

つまり、三井物産が持ち込むと、当然三井グループである日立や東芝がプラントを持つ。そして日立は日立で、東芝は君たちの住んでいる府中で原発の本体を作ってるんですよ。また三菱グループは、三菱重工が神戸で作っている。

今、日本には沖縄電力を除いて9つの電力会社がありますね。そのうち東電、中部電力、中国電力、東北電力、北陸電力、それに半官半民の日本原電が、三井の沸騰水型の系列です。そして三菱が作った加圧水型の方は、関西電力、四国電力、九州電力、北海道電力という系列になっています。

今から12・13年前までは、みんなアメリカの製品だったんですが、それが今や自国製のいわば和製原発を、改良に改良を加えて、世界一だと称する原発を作ってるんです。それには、国が研究費とかお金をいっぱい出してやって来たわけなんです。

今、原発を1基作れば、5000億から6000億円かかるというのが常識です。原発というのは金のなる木なんです。だから、原発を作らせるように、金で推進側に抱き込んでいくわけだ。まずのつかってくるのは、東大を頂点とした教授たち「権威者」。それから文化人、科学者、医学者。これをみんな推進側につけりゃいい。その上に、やっぱり原発を建てるには政治の力がなきゃダメなんで、国政レベルの政治家。これには原発建てる約3%のリベートが転がり込むんです。つまり150億円のフコロコに入ってくるんです。…やめられますか？ オレがこっ側にいたらやめませんよ、どんなことがあ

ったって(笑)。「絶対に原発は必要です」という文化人にも、TVに出てひとこと言えれば何百万という振込があるんだそうですよ。それだから、被曝労働者がどれだけ、何万人生まれようとか、関係ないんです。そういう背景を持って、今、原発推進政策が進んでいます。

人がいないならいいと思うんだ

—樋口さんが原発に反対される一番の根拠は、労働者の被曝問題ですね。

樋口■ 原発はコンピューターで動いているなんて調子のいいこと言ってますが、実は違うんですよ。どうということかという、コンピューターは実際動いていて、電力会社の社員がそれを見ているが、あれは労働者じゃなくてエリートなんです。

—最近の美浜原発の事故とかでも、TVで映すのは、たいていコンピューターをチェックするような場面ですよね。

樋口■ そうそう、マスコミはきれいなコントロールセンターばかり見せるから、国民は原発をすばらしいクリーンエネルギーだと思っちゃう。これはマスコミの犯罪なんです。原発をコンピューターで動かしているような錯覚を国民に与えたことが、悲劇だったんだ。つまり、コンピューターの部屋というのは、放射線の渦巻く原発の中ではなくて外にあって、ここにはあくまで管理する連中が座って見るだけなんです。原発の本体の中というのは、格納容器が真ん中にドーンとあって、それを厚いコンクリートが取り巻いて、そうやって放射線を外には出さないと言

うんだけど、中は放射線の海なんです。で、その中に人がいないなら僕はいいと思うんだ。ところが原発というのは、構造のいうと大体地上5F、地下3Fくらいあって、その各階をいつも放射線をふき取る人がいないんですよ。なぜふき取るのかというと、事故や故障があったり、定期検査の時に、放射能がうなっていたら中に入れないでしょ!? だから日常的に原発の中に入って掃除している人がいます。それに今、パイプの腐食がすさまじいもので、電力会社が言うような甘いもんじゃありません。しかも原発の中は露出したパイプがたぐさん通っているわけで、美浜がいい例じゃないか。蒸気発生器の中のパイプなんて、あんなもの見られやしない。定期検査の時に見やしなかったんじゃないか？

そのため、放射線の除染作業をするのに、定期検査だけでなく、何千人の人達が日常的に必要なんです。今、日本の約40基の原発にどれだけの人が入っているかという、約6万人の労働者が毎日入っているんです。70～88年までの統計によると、原発に関わった労働者は56万人以上。そのうち被曝労働者という、12万2000人レムを越えています。これは、12万2000人の人が、1人が1レム(1000mmレム)をあげたという意味なんです。

自分達には降りかからないから

僕が、原子力には平和利用ということが絶対ありえないと言っているのは、ここです。日常的に労働者を被曝させているということ。これを分かってもらえればいい。それが分からな

いと、反原発も何もないんだ…。—これまでの反原発運動は、放射能汚染された食物を子供に食べさせたくないとか、大事故が怖いという、被害者意識的なものが中心でしたね。

樋口■ だから、せっかく87年から88年にかけてグーッと反原発運動が盛り上がったのに、スーッと消えるようにおとなしくなってしまうんですよ。僕はそれは、労働者被曝はどうするんだという視点が欠けていたからだと思う。結局そんなことは自分たちには降りかからないもんだから、早く言えば労働者だけの問題だからという…。

ところが本当は違うんですよ。その人たちが踏みにじて我々は電気をもらってるんだから。—さっきの12万人レムというのは、国が発表したものなんですか？

樋口■ そう、これは大変なことです。僕が被曝列島という言葉を使うようになったのは、もう原爆だけじゃなくて、平和利用という原発の中で、毎日毎日6万人の人達が被曝しているということ。そして彼等が被曝することで原発が動いているということ。それを全く知らなくて、原発は爆発しないから大丈夫なんだという人だっているわけですよ。

豊かになったから…

原発は安全だとかクリーンだとか言って、国民をいわばあざむき続けてきたわけです。ところが労働形態を見ると、原発がいかに差別の上に成り立っているかが分かります。

原発を動かしている電力会社の下には「元請け」といって、まず原発プラントを作る日立・東芝・三菱がいます。それから実際に建てる建設会社、そして中の計器類、これもシズンとかの一流企業です。とにかく電気メーカーは全部入ってるんです。それに原子燃料の住友…、要するに、元請けというのは、日本の一流企業だと思って下さい。ついでに労働組合はどうかという、これはかつての同盟系、つまり民社党支持で原発推進しているわけだ。

さて、その元請けからは、全部未組織労働者だと思って下さい。元請の下には下請けがあり、孫請けがあり、ひ孫請けがあって、そしてその下に人出業というのがある。クリーンで現代科学の粋を集めた原発の中で、こんな言葉があるんですよ。これには暴力団親方も入っていますからね。電話一本あれば、あとは人を抱えていけばいい。そしてピンハネするわけだ。一人送り出せば最低でも1日5000円もかかる。さあ、これじゃ、みんな原発やめられないじゃないですか。

この人出業の下、最後にいるのが日雇労働者です。これはどういう人達かという、原発を建てるのは過疎地でしょう。過疎地であまりいいこと言って、札東で漁業権を放棄させたり、地域開発と言ってだまらかして、土地を売る。すると土地を売った農民や海を売った漁民達、この人達はある程度の金が入ったので、家を立てる。原発御殿とか言うでしょう。そしたら借金が残って出稼ぎに行かざるをえなくなる。…そういうところに目をつけたんだ。そういうわけで、農民、漁民、

さらに被差別部落民、それから元炭鉱夫、そして大都市の寄せ場労働者。都市労働者も行ってらんですよ。

元請けの連中は労働組合があるから、自分たちだけは危険な所にできるだけ入らないようにしてる。だからこの人達は、労働者であって労働者じゃないんだよね。「連合」がそうだ。原発を進めてるじゃないですか。

本当は元請けだけでやればよかった。そうすれば問題が出てくるだろう。ガンや白血病でみんな死んでいくんだから。

ところが、その下が多いわけだから。これはいわば日本の最底辺労働者ということになるんだけど、この消費社会の中で彼等も現実に飯を食わなくちゃいけない。すると原発しかならないことなんだ。この構図を見ると分かるように、要するに原発は差別の上に成り立ってるわけだ。それをみんな知らなかったってことよ。こんなふうには彼等を踏みにじてるのに、都市の人達は、豊かになったんだから少しはいいじゃないかと言ってるわけだ。ここなんです、問題は。

こうすりゃ原発は動かない

この労働形態を調べたら、これは石炭時代のものでそのままきてるのよ。21世紀を迎えようとしても、人間の労働形態は変わらなかったってこと。(笑)

そうやって人海戦術で原発を動かしてるってことですよ。コンピューターが動かしてるんじゃないんだ。こういう人達が毎日放射能を浴びながら、雑巾で放射能をふき取る作業から始まって、パイプの補修、放射能ヘドロのかい出し、廃棄物のドラム缶詰め、汚染された服の洗濯と、200種類を超す労働をやっているおかげで、原発が動いているんですよ。

原発止めるにや、この6万人の人達に、全部「やめろ」と言ったらいい。とにかくみんなやめてくれないかって。補償するからって人が出てきたら、原発は明日から動かんよ、こんなもの。

—きつと、原発の中の労働の実態をみんな知らなくて、そういう危険な作業は全部ロボットがやってるといようなイメージを持ってるんじゃないでしょうか。

樋口■ ロボットも考えられたんだ。日本電気なんかやってるもの。でも実際に原発の中に入ってみたら、これはダメだって実感してわかったよ。パイプが床上30cmの所を這い回っていたり、階段があったらどうする？これは物理的に無理だよ。原発労働者に聞けばよく分かるけど、とてもロボットがやれるもんじゃありません。朝日新聞でも10年以上前から

ロボット化なんて書いてるけど、どうしてあんなにいかげんなこと書いたんだろうね。そんな話にのっかっちゃいけない。じゃあ、現実を示させて貰わなくちゃ。

原発でタチが悪いのは、平和利用だって言葉だ。被曝労働者を生んでいて、平和利用じゃないでしょう!? どういうふうに「平和」って言葉をくつつけられるのか、俺には分からんね。

知らない連中にやらせるんです

—だからこそ、労働者の被曝のことを隠すんでしょね。

樋口■ 隠したいんだよ。原発のアキレス腱は、核のゴミのこともすごいけど、もう一つはこの被曝労働者のことだと思います。この問題をメジャーマスコミが国民に本当にアピールしていったら、原発はとまりますよ。やっぱり人間の問題だもの。放つとける？俺は放つとけないと思うね。日本は原爆の被曝で怒ってるはずなのに。毎日被曝者を出している原発のことを、僕が平和の中の戦争と言

うのはそれや。しかも、このままだと、原発だけでなく、高速増殖炉のプルトニウム社会を迎えて、半減期が2万4000年という猛毒のものをどこにどうするのか。

—プルトニウムを作る高速増殖炉は、原爆の材料にするのが、本当の狙いなんじゃないでしょうか。

樋口■ そうですよ。なぜここまでして、核燃料サイクルをやるかっていうと、一番行く末には核兵器を作るに決まってるじゃないか。今度の湾岸戦争はいい例で、武力がなかったら押し込まれるぞって。日本も核兵器を持ってなきゃ論法が、確実に出てきますよ。プルトニウムから原爆を作るのは簡単なんだ。それを兵器産業が放つときですか？

日本の平和産業は全部、兵器産業でもあるわけよ。これがやらないなんてことが、ありますか？ それほど、すさまじいものなんです。金もうけというのは。経済を支えていくということは、もう弱者を踏みにじらなかつたら出来ないことなんです。昔からそうだったでしょ。

美浜原発事故の問題をもう一つ言っておきましょう。技術的なことは、もう新聞や雑誌で言ってるので、改めて言いません。ただ、蒸気発生器について、今度の本の中に現場監督の話が出てくるんです。この人は、あの福井の原発地帯で、200人くらいの労働者を抱えている人です。その話では、ちょうどこの蒸気発生器周辺でやる仕事が、一番放射能を浴びるんだって。で、もし私が蒸気発生器の

周辺で仕事をしなきゃいけないって、仕事をやめますと云うほどだったんです。その付近には、何分とはいきられないと云ってましたよ。だから私の所にいられている連中だって、行きたくない。じゃあ誰にやらせるんですかって聞いたら、全国から来たよく知らない連中にやらせるんですって言うんだ。

で、この人は、僕が取材して9ヶ月後には死んでるわけね。わけの分からない病気で。僕が話を聞いた時も、とても元気がなかった。ということは、もうその頃には、原発プラブラ病だったのよ。

被曝労働者の問題は、原発やめたらエネルギーどうするかというような問題じゃないんです。人間を殺すことをやめさせるために、みんなで考えなきゃいかんと叫び続けなかったら、一体、現代というのは何なんだ？文化国家とは言えないでしょう。

編集部メモ

樋口さんの話は、この後、具体的な被曝労働者のことに移った。詳しくは本に載っているのよ。ぜひ読んでほしいと思うが、その中でも原発内での労働と放射線被曝の因果関係を裁判に訴えようとした人達の話が印象的だった。被曝労働がさらに恐ろしいのは、被曝に対する補償が全くといっていいほど成されていないことだ。つまり企業や国側は、原発内の労働は「クリーンで安全」なので、被曝による障害や死亡はありえないという立場なのだ。そのため、裁判でも常に電力会社や国側は、学者や医師の「権威」を抱き込んで、原発内の労働と被曝の因果関係を否定し続けてきた。

日本で原発が動き始めてからすでに25年になろうとしているが、現在のところ原発被曝裁判は、16年前から闘い続けている若佐さん一人しかいない。これまでに裁判を起そうとした人は他にも何人かいたのだが、企業からの脅しと示談金という餌と鞭によって、ことごとく裁判がつぶされてきた現実がある。

これでは死んだ人や、働けないほど弱って生活に困っている人達が浮かばれない。こんなことが、いつまでまかり通るのだろうか。美浜では結局、修理をあきらめて蒸気発生器を取り替えることになったようだ。どちらにせよ、事故以来、毎日すさまじい放射能を浴びながら後始末の作業をしているたくさんの人達が、何を忘れてはならないのか。

そして、原発という金のなる木に群がる企業と政治家と権威者によって、被曝労働者を生み出す構造が作られ、その中には豊かな生活を享受している我々自身も組み込まれているんだということを、決して忘れてはならないと思う。(浜田)

「ドキュメント6」展

●日本・地球を考える写真とシンボリズム
樋口健二さんを初め、六人のバリバリのドキュメンタリー写真家が登場する写真展「シンボル」が始まる。

コマーシャルの波に呑み込まれ、消えようとしているドキュメンタリー写真家危機感を持ったフォトジャーナリスト達が集まり、歴史の証言者・告発者としてのドキュメンタリー写真の復権をめざして、何をすべきか、何が出来るかを模索する写真集団を作った。心ある写真家の積極的参加を期待している。

参加している写真家とテーマは…

- 樋口健二(原発列島・被曝者)
- 福島英次郎(戦争責任、日本パナライ)
- 伊藤 孝司(朝鮮人強制連行)
- 豊崎 博光(世界の核被害者)
- 森原 史成(水俣)
- 新井 利男(中国に残された日本人・中国侵略)

●四月五日(金)

●四月六日(土)

●四月七日(日)

●四月八日(月)

●四月九日(火)

●四月十日(水)

●四月十一日(木)

●四月十二日(金)

●四月十三日(土)

●四月十四日(日)

●四月十五日(月)

●四月十六日(火)

●四月十七日(水)

●四月十八日(木)

●四月十九日(金)

●四月二十日(土)

●四月二十一日(日)

●四月二十二日(月)

●四月二十三日(火)

●四月二十四日(水)

●四月二十五日(木)

●四月二十六日(金)

●四月二十七日(土)

●四月二十八日(日)

●四月二十九日(月)

●四月三十日(火)

●五月一日(水)

●五月二日(木)

●五月三日(金)

●五月四日(土)

●五月五日(日)

●五月六日(月)

●五月七日(火)

●五月八日(水)

●五月九日(木)

●五月十日(金)

●五月十一日(土)

●五月十二日(日)

●五月十三日(月)